

心の原風景 —我が母校—

佐渡市立赤泊小学校

平成24年度で創立137周年を迎えた赤泊小学校の教育目標は、「じょうぶな体 きれいな心 力いっぱい 精いっぱい」です。現在、児童数は88名です。

赤泊港から発着する高速船あいびすを眺めながら、子どもたちは大きく豊かな気持ちで生活しています。エアコンと床暖房が完備された新校舎になって7年です。平成22年には太陽光パネルが設置されて、環境に配慮した校舎になっています。

【学習発表会】

毎年、赤泊の郷土芸能「赤泊小唄」と「鬼太鼓」を発表しています。

「赤泊小唄」は、支援ボランティアから踊り方や振り付け、歌詞の意味を教えてもらいます。衣装の準備



鬼太鼓と大獅子

や着付けは保護者をお願いしています。「鬼太鼓」は、6年生が発表し

ています。支援ボランティアから10回以上来校していただき、全体の構成から太鼓や横笛まで丁寧に指導してもらいます。平成22年には初めて「鬼太鼓」に合わせて「大獅子」の演出を試み、大好評でした。

【民話語り・読み聞かせ】

1月の「お話ウィーク」では、「民話の里 赤泊」の特色を生かして民話語りの会を行っていただきます。3名の語り部から、低・中・高学年に分かれて民話を語っていただきます。3・4年生の総合学習では、語り部から民話語りを教えてもらい、保護者の前で披露しました。

また、8名の読み聞かせボランティアに、年7回、学年ごとの読み聞かせをお願いしています。子どもたちは読み聞かせの時間がとても楽しみです。目を輝かせて聞いています。図書室の飾り付けや図書の整理にも協力していただき、読書活動・読書環境の充実を図っています。



民話語り

「海こそよけれ赤泊 山こそよけれ赤泊 人こそよけれ赤泊」の気持ちを大切にしながら、赤泊小学校は地域とともに歩んでいます。

◆教育委員会学校教育課（両津支所内） ☎23-4898

ジオパーク、推進日記

16

☆世界に広がる

ジオパーク

5月11日から4日間に渡って「第5回ジオパーク国際ユネスコ会議」が長崎県の島原半島ジオパークで開催され、世界31か国593名のジオパーク関係者が島原半島に集結しました。文化や言語が違う参加者が「ジオパーク」をキーワードとして、各国での取組やこれから目指す方向性などについて多角的に意見を交わす大会となりました。

ユネスコが支援する「世界ジオパークネットワーク」は平成16年に設立され、平成20年には加盟している地域は18か国57地域となりました。それから8年経った平成24年現在、世界ジオパークに加盟している地域は、27か国89地域までに増えました。割合を見ると、国家をあげて取り組んでいる中国と地方自治体やNPOが中心となって運営しているヨーロッパの国々に多く集中しています。

世界ジオパークに最初に認定された地域の1つである中国の雲台山ジオパークや今も噴火を続けるイタリヤのシチリア島東部のエトナ山など聞いたことがある方もいらっしゃるかもしれません。

日本、そして世界ジオパークを目

指して推進事業を進めている佐渡ですが、世界の国でお手本にある国があります。それは、韓国の済州島です。平成22年に世界ジオパークに認定された済州島は、火山活動によって形成された比較的新しい島で火山が作り出した美しい風景や地質学的にも価値の高い独特の地形などが自然のままに保存されています。また、平成19年に世界自然遺産にも登録されています。

ジオパークと世界遺産が融合した島である済州島から、佐渡が学ぶことは多いのかもしれませんが。



島原国際会議の様子

◆教育委員会社会教育課 ジオパーク推進室（両津郷土博物館内） ☎23-2101